特集

海外で母語を育

企画・構成＝古家 淳

海外で子どもを育てるときに、どこの家庭でも大きな問題になるのは、子どものことば。親は日本語を話していても、ふつうの保育園や幼稚園はもちろん、テレビやラジオから入ってくることばはいずれも外国語。小学校に上がったとしても、日本人学校でなければ毎日の授業は外国語。

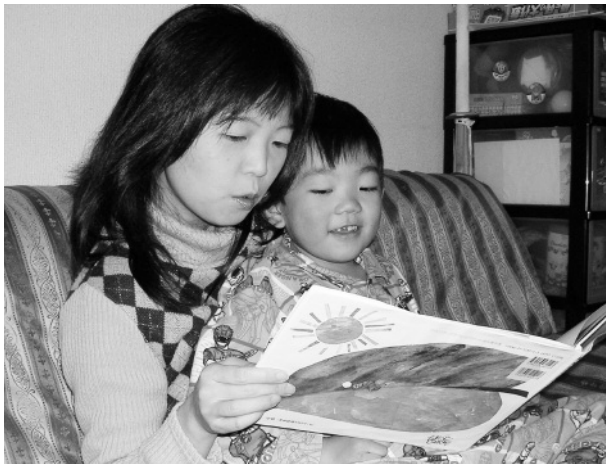
しかし、親と同じ日本語を子どもに身につけさせようと考えるのも自然なこと。その
めにはどうすればいいのか？　うす
バイリンガルになってくれれ
ど、どちらも中途半端
うしよう？

この特
ど

提案
女であるつ
りか先生に指針

は経験談。読者18人から寄せて
いた体験談をまとめてみた。

そして最後に、アメリカのニューヨークで長年にわたり日本人のために「こどものくに幼稚園」を運営してきている早津邑子先生、帰国子女の受け入れでは歴史のある啓明学園の初等学校で教えている島田かおる先生、さらに慶應大学で言語の認知科学について研究している大津由紀雄先生の３人に、それぞれの立場から「どのような問題があるか」を記していただくとともに、座談会でさらに話題を掘り下げていただいた。



SAMPLE

特集１

母語で親しむ読み聞かせ

昨年四月号に続き、今年は特に「読み聞かせ」に着目る」ことに焦点を当てた特集

最初に母語を育てることの大ども に読み聞かせをすることの大童文学者の宮地敏子先生に解説して

でも、いくら大切だとわかっていう環境で、しかも個々の家庭では、日で読み聞かせを続けていくのはなかなかしれません。いくつかの家族が集まってい続けていくのが、「文庫」の活動です。そこ章ではイギリスにある二つの文庫の活動を現レポートして、仲間と共に読み聞かせを楽しんでいくコツをお伝えします。

そして最後は本誌で毎月「ＢＯＯＫＳ子どもの本棚」を担当しているメンバーによって、読み聞かせのために適した本のリストを作成してもらいました。

子どもの日本語力に不安を感じているご家庭もあかもしれません。「乳幼児期が大事だと言われるど、うちの子はもうその時期を通り過ぎてしまとあきらめてしまいそうなご家庭もあるかもん。でも、親と子どもが一つの時間を共にみ聞かせは、いつでも始められます。子どになっても、親が自分のために静かで落ときをつくり向かい合ってくれる読み喜びを感じることでしょう。

SAMPLE

特集1

日本語を保ち育てる

SAMPLE

につれ、子どもの日本語が「乱てきた」「遅れてきた」などと心配少なくありません。

で生活する日本人の子どもたちにとって、ちち、さらに育てていくことは非常に重要なまた保護者にとっても最大の悩みでしょう。

育つ日本の子どもたちにとって、日本語を学び身伸ばしていくとはどういうことなのか、またそのたにどのような支援・取り組みが必要なのか。

今回の特集では、まずアメリカに住む日本人の子どもたちの日本語力について研究を重ねてきた専門家に、海外で育つ子どもの日本語の実際の姿と、この子どもたちの日本語力を育てるためのヒントを書いていただきました。

また後半では、世界各地の日本人学校・補習授業校で行われている授業や課外活動などから、日本語・国語の力を伸ばすための取り組みをご紹介します。

今回の特集では、多くの学校から投稿をいただきました。ご協力いただきました皆さまにお礼申し上げます。ありがとうございました。